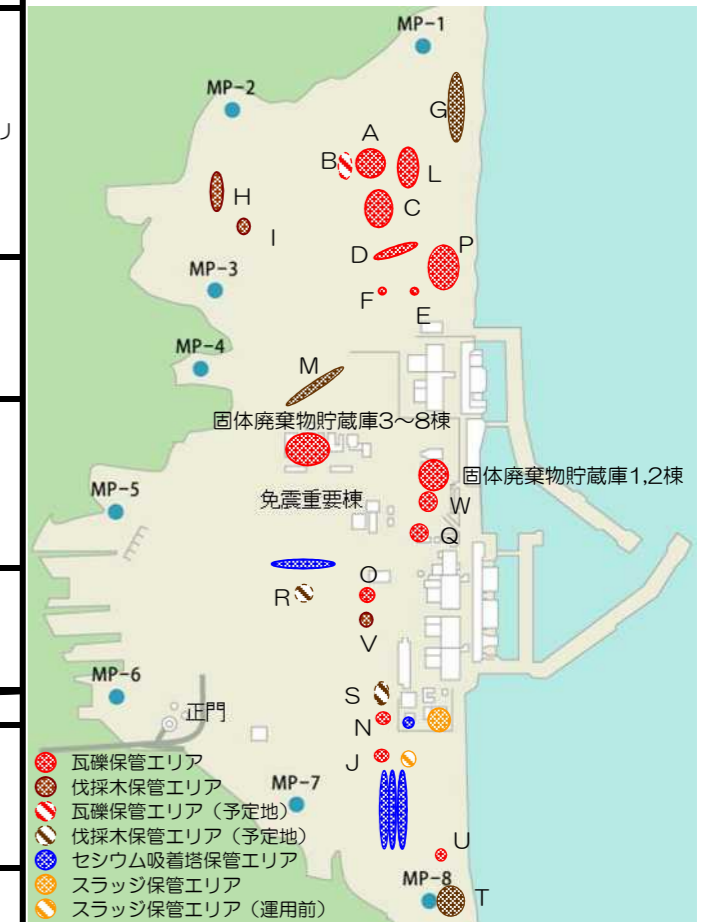


ガレキ・伐採木の管理状況(2015.11.30時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量 ^{※1}	前回報告比 ^{※2} (2015.10.31)	変動 ^{※3} 理由	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)	トピックス					
ガレキ	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	C	屋外集積	0.01未満	58,300 m ³	-600 m ³	①②③④⑤	92%	115000 / 177900 (65%)	<ul style="list-style-type: none"> 可燃物集積 エリアJはコンクリート・金属の一時保管から、可燃物(容器収納)の一時保管に運用変更。(2015年9月8日~) β汚染土 タンク漏えい等で発生した主にβ核種で汚染した土については、エリアNでの一時保管を開始。(2015年7月15日~) フランジタンク解体片 エリアPにて一時保管中。(2015年6月15日~) 2015年11月末時点で71基保管。 				
		F	屋外集積	0.01	4,400 m ³	-700 m ³	⑥	58%						
		J	屋外集積	0.02	2,700 m ³	+1,700 m ³	⑦	56%						
		N	屋外集積	0.01	3,200 m ³	+700 m ³	②	32%						
		O	屋外集積	0.02	26,200 m ³	0 m ³	—	95%						
		P	屋外集積	0.01	19,500 m ³	+4,300 m ³	①②⑦	30%						
ガレキ	シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01	2,600 m ³	0 m ³	—	88%	30700 / 48300 (64%)	<ul style="list-style-type: none"> エリアE エリアEの瓦礫類について、リスク低減の観点から容器収納へ移行中。 				
		E	シート養生	0.06	7,100 m ³	-100 m ³	①⑤	44%						
		P	シート養生	0.01	0 m ³	0 m ³	—	0%						
		W	シート養生	0.03	21,000 m ³	0 m ³	—	72%						
ガレキ	覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100%	19400 / 27700 (70%)	<ul style="list-style-type: none"> 覆土式一時保管施設(第3槽) 瓦礫収納完了:2015年8月21日 仮覆土:2015年10月26日完了 				
		A	仮設保管設備	0.35	1,000 m ³	+400 m ³	⑧	13%						
		E	容器 ^{※4}	0.01未満	100 m ³	微増	—	5%						
		F	容器	0.01	600 m ³	0 m ³	—	99%						
ガレキ	固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器 ^{※4}	0.03	6,000 m ³	微増	—	50%	6000 / 12000 (50%)	<ul style="list-style-type: none"> 主な瓦礫類は、3号機建屋で発生した高線量瓦礫類。 第9棟設置に伴う実施計画変更認可。(2015年7月17日) 				
				合計(ガレキ)	171,100 m ³	+5,700 m ³	—	64%						
				伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H	屋外集積	0.01	14,700 m ³	0 m ³	—	74%	66000 / 81500 (81%)	<ul style="list-style-type: none"> 工事により発生した幹・根を随時受入中。 エリアV移設後運用開始。(2015年10月23日~)
						I	屋外集積	0.01	10,500 m ³	0 m ³	—	100%		
M	屋外集積	0.01未満	39,100 m ³			+500 m ³	①	87%						
V	屋外集積	0.03	1,700 m ³			-300 m ³	①⑨	29%						
一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満		7,300 m ³	0 m ³	—	56%	18400 / 24863 (74%)	<ul style="list-style-type: none"> エリアGにおいて、伐採木一時保管槽を増設中。 				
	T	伐採木一時保管槽	0.01	11,100 m ³	0 m ³	—	94%							
合計(伐採木)	84,500 m ³	+300 m ³	—	79%										



※1 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

※2 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。

※3 主な変動理由: ①フェーシング工事 ②タンク設置関連工事 ③陸側遮水壁設置工事 ④焼却対象物の集約作業 ⑤焼却対象物を一時保管エリアPへ移動 ⑥焼却対象物を一時保管エリアJへ移動

⑦焼却対象物の受入 ⑧1~4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ⑨エリア整理 等

※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2015.12.17時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2015.11.26)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	682 本	0 本	2900 / 6055 (48%)	<ul style="list-style-type: none"> 吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) 	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	152 本	+2 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,054 基			+8 基
			増設	767 基			+12 基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	69 本			+1 本
		多核種除去設備処理カラム	既設	7 塔			0 塔
モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		169 本	0 本				
水処理 二次 廃棄物	廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	<ul style="list-style-type: none"> 除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。 	
			濃縮廃液	9,192 m ³	-23 m ³	9192 / 20000 (46%)	<ul style="list-style-type: none"> タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) 保管容量20,000m³のうち、9,700m³分の撤去計画について認可済み。 保管量に「タンク底部~水位計0%の水量(IDS)」を含んでいない。(約100m³)



ガレキ・伐採木・水処理二次廃棄物・濃縮廃液の保管量推移

